

「震度6強体験シミュレーション」

内閣府が作成しインターネット上で公開されている「震度6強体験シミュレーション」。
具体的にどのようなものでしょうか。試しにやってみました。



最初の比較的シンプルな画面。ここで簡単な設定をする。

震度6強体験シミュレーション

インターネット上で「震度6強体験」で検索すると、「震度6強体験シミュレーション」のページがヒットする。開くと、イラスト調の青い家が出てきて、若干の設定をするようになってくるが、基本的にシンプル、むしろ地味な印象だ。

とりあえず、「家具固定なし」「耐震強度なし」と設定し、スタートボタンを押した。

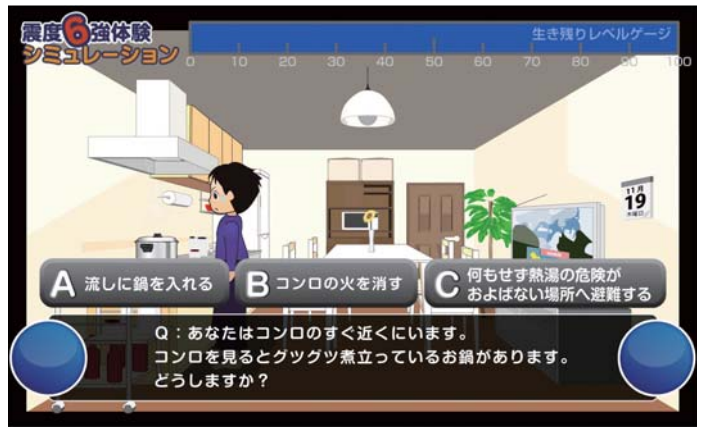
真っ暗な画面に「ある日あなたはリビングでテレビを見ていました」というテロップが流れ、続いて普通の家のリビング兼台所のような部屋が、アニメーション風で現れる。主人公っぽい高校生？のような男の子が、テレビを見ている。薄型の液晶タイプの大きなものだ。台所のコンロには、ナベがかかっている。今夜のカレーか、シチューだろうか。ん？コンロの火はちゃんと燃えた感じになっているし、ナベからは湯気が立っている。なかなかリアルである。さらに壁のカレンダーはまさに今日の日付になっている。心にくい仕掛けだ。

シミュレーションの進行

シミュレーションは、地震の



発生からスタートする。突然、「緊急地震速報です！緊急



次々と「選択肢」が示される。緊張する場面だ。



正解すると「GOOD」の文字が。

この後も、次から次へと質問が出され、そのたびに選択肢をクリックする形で状況が進んでいく。まさに「命の選択」だ。最も正しい選択肢を選ぶと、「GOOD」の文字が、また、最も正しい選択肢以外の場合は、その間違いの「程度」に応じて「マイナス何点」と表示される。最初の持ち点は100点だが、マイナスの点を取ると、どんどん減点されていき、画面上の持ち点ゲージが減っていく。0になったらゲームオーバーだ。ゲーム自体は10分もかからない。選択場面もわずかに力所である。し

地震速報です！強い揺れに警戒してください、身の安全を確保してください」との注意がテレビから聞こえ、続けて「他の部屋には家族がいます。どうしますか？」という問いと、選択肢が表示される。「A 速報を大声で伝える」「B 家族がいる部屋に走る」の2つ。うーん、どっちだろうか。迷う。声だけでは助けられないから、家族の方に行くようにしよう。「B」を選択。しかし、「ブブー」という音とともに、「5」の文字が。間違いだったようだ。「緊急地震速報が出たあと、地震が到達するまでわずかな時間しかありません」などの解説が表示された。わずかな時間しかないから、大声で呼ぶのが正しいようだ。

かしその答え合わせごとに必ず解説が示される。ゲームを進めながら、自然と防災知識が身につく仕掛けだ。

システム作成の経緯

このシステムは、どのような経緯で作られることになったのだろうか。このシステムの企画を行った内閣府の山崎企画官に聞いた。

——このシミュレーションを作ったきっかけを教えてください

山崎 みなさん「防災」にはとても高い関心をお持ちですが、耐震化や家具固定などをされている方はまだ多くありません。高い認識が実際の行動に必ずしも結びついていないの

です。そこで、災害、特に地震発生時にとるべき行動に対する理解を、とても気軽な方法で深めていただける手段はないか考え、このようなゲーム的なものと思いました。

——みなさんに向けてメッセージを

山崎 できるだけ多くの方にこれを体験していただきたいです。もちろん、実際の災害では、ゆっくり選択肢を選んだりできないし、冷静に判断するゆとりもありません。しかし、だからこそ、いざ起こる災害に備え、あらかじめ行動を「イメージ」しておくことがとても大切です。その一つの手段として、このゲームを気軽に使っていただきたいと思います。



最後に「採点」が。結果に唖然...



システムの企画を行った内閣府の山崎企画官

●震度6強体験シミュレーションは、インターネットで「震度6強体験」で検索。簡単な設定ですぐ開始できる。

詳細は、内閣府政策統括官(防災) 災害予防担当 03-3501-6996「震度6強体験シミュレーション担当」まで。

<http://bosai.marvista.jp/>

「防災シミュレーター」

前号で内閣府「震度6強体験シミュレーション」をご紹介しましたが、それは内閣府の「防災シミュレーター」のシステムの1つです。ほかにも多くの役に立つシステムがあります。今回はそれらを見てみましょう。

内閣府が作成している「防災シミュレーター」には、前号で紹介した「震度6強体験シミュレーション」以外にも、「我が部屋チェック」「揺れ方シミュレーション」「想定シナリオ」「各自治体防災情報HP一覧」という防災に役立つシステムがある。それぞれについて見ていく。

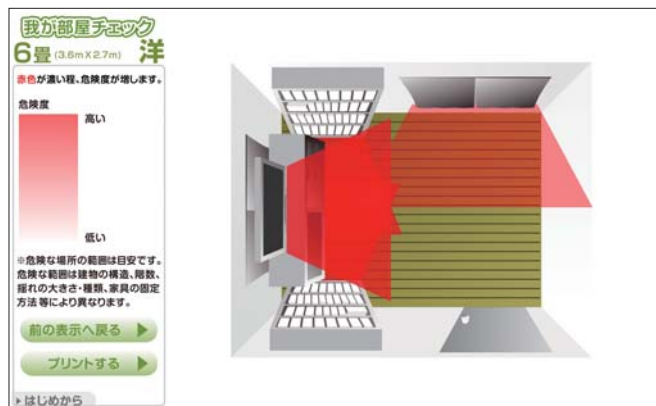
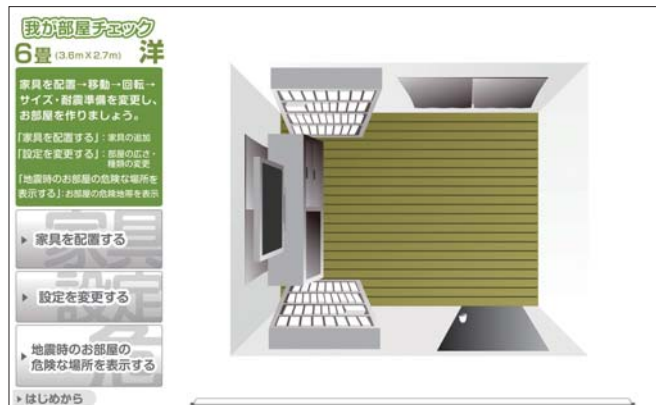
我が部屋チェック

利用者の家の中の特定の部屋について、地震発生時の「危険な場所」を確認するためのページ。

それぞれの部屋に応じた危険度をきめ細かく判定するため、各自の部屋の情報を入力する。「部屋の広さは？」（5畳から12畳）、「和室か洋室か？」。そこまで簡単に設定して、いよいよ肝心な家具の配置を行う。一見、家具はたくさんあるので配置が面倒だと思うかもしれないが、とても容易に作られている。たとえば

タンスを例にとっても、サイズ、向きは適当なものを選べるし、固定状況に至っては、突っ張り棒、壁との固定、耐震ゲルマットの有無まで選べる。

この作業をする
ことで、思った以上に家具の固定をしてないことに気が付き、少し反省するとともに、自分の部屋には一体どんな危険があるのだろうか。ちよつとどきどきしてきた。
そして最後に、「危険な場所を表示する」ボタンを押すと、瞬時に危



険な箇所が表示される。地震時は、固定をしていないテレビが危険なところのはっきりした。うすうす感じてはいたが、ここまで視覚に訴えられるとまったく違う。

よく見ると、突っ張り棒、壁との固定、耐震ゲルマットの有無や飛散

防止フィルムの有無によって、危険度が変わってくるというきめ細かさには脱帽だった。

揺れ方シミュレーション

家の模型を使った、地震発生時の

揺れ方シミュレーション

このシミュレーションでは縮尺模型を地震台で揺らすことで地震の揺れ方と家具の揺れ方をみなさんに体験していただけます。



▶ はじめから

木造建物に居住	
▶ 木造建物に居住2階 洋室 直下型地震	35秒
▶ 木造建物に居住2階 洋室 長周期地震	100秒
▶ 木造建物に居住2階 和室 直下型地震	40秒
▶ 木造建物に居住2階 和室 長周期地震	93秒
鉄骨・高層マンションに居住	
▶ 鉄骨・高層マンションに居住 8階 直下型地震	35秒
▶ 鉄骨・高層マンションに居住 8階 長周期地震	68秒

想定シナリオ

地震はいつでもどこで起こるかわかりません。季節、時間、場所、天気、家族構成、地震の大きさを決め、あなたに起こりうるシナリオを書いてみましょう。シナリオを細かく書くことで、災害時、あなたがとるべき行動がみえてくるはずです。

想定シナリオ例

- 季節：夏 天気：晴れ
- 時間：3:00am
- 場所：2階寝室
- 家族：妻、子(10ヶ月)、母
- 震度：震度6 縦揺れ



▶ はじめから

各自治体防災情報

ホームページ一覧

各都道府県ごとに設けている防災に関するホームページを一覧にし、それぞれの住まいの周辺に関する防災情報にアクセスできるようにしました。

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
新潟県	山梨県	長野県	富山県	石川県	福井県	
岐阜県	静岡県	愛知県	三重県			
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	
鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県		
徳島県	香川県	愛媛県	高知県			
福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県
						沖縄県

全体

ハザードマップ (国土交通省) あなたのまのハザードマップ (国交省) 国民保護法に基づく避難施設一覧 (全国)

●「防災シミュレーター」は、災害被害を軽減する国民運動に資するためのシステムとして、名古屋大学福和伸夫教授、東京大学目黒公郎教授の監修により、内閣府政策統括官(防災)において制作。「防災シミュレーター」は、インターネットで「震度6強体験」で検索。
<http://bosai.marvista.jp/>
 詳細は、内閣府政策統括官(防災) 災害予防担当「防災シミュレーター担当」まで (TEL 03-3501-6996)。

前号と合わせ、内閣府の防災のシミュレーターをご紹介します。いずれも、インターネットの環境さえあれば、いつでもどこでも気軽に災害の疑似体験ができ、防災の知識を得ることができるものです。

まずは、体験してみてください。

あなたとあなたの家族の安心・安全のために、きつと役立つことがあるはずですよ。

室内の「揺れ方」を疑似体験するためのページ。「木造住宅」と「鉄筋・高層マンション」の別、「直下型地震」と「長周期地震」の別、「洋室」と「和室」の別を選択して、利用者の住まいの状況に近い条件での揺れ方を体験。

このシミュレーションでは、縮小模型を地震台で揺らした映像を見ると、ことなる。実際に体験してみると、映像だけではなく、「音」も出るの、かなりの程度、地震災害の疑似体験ができる。また、直下型地震に加え、長周期地震の揺れ方の映像もある。このように比較してみると、揺れ方

の違いがよくわかる。

想定シナリオ

利用者がそれぞれの事情に応じた「想定シナリオ」を考えていただくための参考となる「想定シナリオ例」を提示。

地震はいつでもどこで起きるかわからず、季節、時間、場所、天気、家族構成、地震の大きさなどの組み合わせにより、実際に起こりうるシナリオはさまざま。この例を参照することを通じ、災害発生時、本人や家族が見舞

われる状況をイメージしやすくして、必要な備えをしていただくことを目的とするもの。

想定シナリオ例を読んだ後、自分と家族に照らして考えてみた。家族との連絡方法をどうするか、携帯電話は通じるのかなど、あらかじめ話し合うことは多い。良い機会だから、この週末にでも家族みんなで話し合ってみよう。

各自治体防災情報HP一覧

都道府県ごとに設けている防災に

関するホームページを一覧の形にし、利用者がそれぞれの住まいの周辺に関する防災情報にすぐにアクセスできるようにしたもの。

早速、自分の家がある「神奈川県」の情報を見てみたが、防災・災害情報、災害対策マップ、ゆれやすさマップなど、必要な情報に簡単にアクセスすることができた。田舎の両親にも知らせようと思う。

.....